

秋ギク「神馬」の2月開花作型における再電照法						
〔要約〕秋ギク「神馬」は、2月開花作型では、電照消灯後14日暗期の後に4日再電照することにより舌状花数が増加し、うらごけを防止できる。						
総合農林試験場・野菜花き部・花き科	専門	栽培	対象	花き類	分類	普及
資料名：平成13年度花き試験成績書						

〔背景・ねらい〕

「神馬」は、舌状花数が少なく、うらごけしやすい品種である。そこで、これらの切り花品質を向上させる再電照技術を確立する。

〔成果の内容・特徴〕

1. 「神馬」は、電照消灯後14日暗期の後に4日再電照することにより、舌状花数が増加する（表1）。
2. 「神馬」は、再電照することにより上位葉が大きくなり、うらごけを防止できる。（表2）。
3. 「神馬」の舌状花数を増加させ、うらごけを防止できる再電照方法は、電照消灯後14日暗期の後に4日間点灯するのが最良である（表1、表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 再電照は、深夜4時間とする。

[具体的データ]

表1 「神馬」の再電照方法と花弁数

試験区	舌状花数	管状花数	合計	舌状花率
8日暗期	180.1枚	108.2枚	288.3枚	62.5%
10日暗期	199.8	83.2	283.0	70.6
12日暗期	214.5	52.4	266.9	80.4
14日暗期	229.4	33.0	262.4	87.4
再電照無し	178.4	57.5	236.4	75.7

注1) 直挿し 平成13年10月18日

注2) 摘心 平成13年11月6日

注3) 消灯 平成14年1月2日

注4) 再電照 深夜4時間、4日間点灯

表2 「神馬」の再電照方法と葉長

試験区	1葉	3葉	5葉	7葉	9葉
8日暗期	6.3cm	9.0cm	9.4cm	9.3cm	9.7cm
10日暗期	6.6	9.0	8.9	8.7	9.4
12日暗期	6.3	8.3	8.0	8.4	9.3
14日暗期	6.4	8.3	7.9	8.1	9.2
再電照無し	5.1	7.0	7.4	8.0	9.2

注1) 直挿し 平成13年10月18日

注2) 摘心 平成13年11月6日

注3) 消灯 平成14年1月2日

注4) 再電照 深夜4時間、4日間点灯

注5) 1葉 最上位葉を1葉、以下同様

[その他]

研究課題名：省力的な無側枝性ギクの生理・生態解明と生産安定技術の確立

予算区分：国庫助成（新技術）

研究期間：平成13年度（平成11～13年）

研究担当者：出口 浩

発表論文等：